

校訓

明 信 覇
朗 念 氣



第 4 号

発行 県立富士宮北高等学校同窓会
北 嶺 会
編集 北 嶺 会 広 報 部
部長 井 出 元 一



創立四十周年記念号

発刊に寄せて



北嶺会長 今 村 堯

財を集めるよりも之をよく散ずる事は更に難い……
これは曾って富士宮市長故小室鶴松氏が贈った母校の創立者、望月軍四郎先生の胸像の碑文の一節である。
昭和十三年、望月先生が父母と社会への報恩感謝のため多額の私財を投じ、明日の地方商工業の中堅人材育成を念願として母校が創立された事は已に広く人々の知る所である。望月先生は母校のみならず慶応大学を始めとし、その多くの教育関係に当時の額にして凡そ数百万円の巨額な投資をされ、然もそれは利益還元が目的で無く、全て他を生かし育てる為であった所に先生の偉大さがあり、又教育振興の為の遠大な計画と共に、時代を超越した報恩感謝の永遠の原理を建学精神とした所に、何人も真似る事の出来ない崇高な精神を見る事が出来るのである。
正面に日本一の嶺峯富士を仰ぎ、三万

六千坪の広大なキャンパスと三百米に及ぶ中央道路の桜と銀杏の並木や、又広大な校庭を取巻く緑々たる林……等、そして創立当時の木造校舎は今や鉄筋の白亜の校舎に一変し、然も町の喧噪から遠く離れたその静かな佇まいは真に理想の人間教育環境であり、智徳体の完全教育修練の道場として将に日本一と言っても決して過言ではないと信ずるものである。
本年三月の新入会員を加え、今や北嶺会員数は実に九五一〇名の多きに達し、内には二世も、又同会員であるというケースも次第に増えつつある事を思う時、創立四十周年の歳月に望月先生の理想が次第に然も着実に根を張りつつある事を感じるのである。
近年母校に対する評価も次第に高まり進学や就職にその成果を見る事が出来るのであり、特に昨年は母校の相模、極高跳部の生徒諸君が、インターハイその他

の大きな大会で日本一及準日本一の栄誉をもたらした事は、独り母校の名譽のみならず広く当地区皆様の誇りであると共に、今を去る十二年前、野球部が甲子園の土を踏んだ事と共に吾が北嶺会の大いなる誇りである。
本年一月、一回卒の明石・榎谷氏等のご尽力で、静岡・清水地区を中心に北嶺会静岡支部が結成され、先に三年前東京を中心に関東支部が結成され、お骨折りで北嶺会関東支部が結成され、次第に地区毎の組織化の進んでいる事はまことに喜ばしい限りである。
今回、北嶺会事業の一つとして弘報部一回卒井出副会長を中心に、北嶺会だより第四号を四十周年記念特集号として企画し、四十年を区切りとして過去を振り返り、その時代々々を浮彫りしたものを広く会員に紹介するため、去る日回願座談会を開催し、その模様は本号に記載の通りであり、読者の夫々が思い当たる古い記憶をなつかしく思い出される事と思う。

北嶺会は今や四十周年を過ぎ、次の五十周年に向け更に大きく発展する事を願い、最後に、本紙発行にお骨折り願った関係各位に、心より感謝を申し上げ私のご挨拶といたします。

あゝ帰って来た我が家



学校長 吉 田 廉

なつかしい、私にとっては、劇的とも言える十六年振りに、わが青春の新任として赴任したわが母校とも言いいたい北高へ、大仁高から転勤して来ました。私にとって、富士宮がふるさとと同じ、あの旧校舎のひとつひとつが、いつも勇気を、どこにいても与えてくれたことだからです。
旧実業高に昭和二十六年十一月、ミカン箱の上にたゞされ紹介され、「白米の中にひとつでも麦があれば、麦飯だ」と言ったことから、バクのだな名が即日つけられ、ロマンの様なことばが感じられたのか、言ったのか、夢を喰う動物の模(バク)に変化して、ペンネーム的に『嶺』と言うことになったことです。
私の本名は消え伏せ、アダムが本名と思ひ込んでいるのが殆んど、今でも「バクさん」ですか、と電話を受けたりもしています。
風呂敷に本をくるんで、頭髪はバサバサで、ヤセボソって、生意氣なことを生徒と討論し、送球で生徒に突き飛ばさ

れ、夜は火鉢に本を破ってはぬくもりをとりながら、生徒と自宅まで語りあったあの時が、今あるんだろうかと、近代的な美しき整備された環境に立つて考えること度々です。
四月赴任以来、毎日の様に卒業生とふれあっていますが、とても私ごとばかりで教育で育って来たのと違っていて、そのたくましさと、その生々しい現実の中での闘いと、その広さには圧倒されてしまっています。人間的にははるかに成長した人々にふれ、まさに考えさせられてしまっています。
以前から私は、教員から「それではダメ、こうなんだ」と言われては「あゝ、そうかあ」と何回も、ふれ合うことの会話があります。社会の場では、教員がまさに教師です。
北高へ来て、我が家の様にほっとした気持ち、旅に出て帰った感じ、そう思っていたら、沢山の課題がたたらほら見え出してきた昨今です。でも私の出来ることは体当たりでいけば良い、思いきり北嶺精神を醸成させて突進めば良い、それしか自

分にはないのだと言いきかせています。
なつかしい職員の前が、自分の様に感じ、スリッパと語り合うのも自由出来るのは嬉しいことです。かつての仲間、共に生徒にハダでぶつかり合ったことは、やはり私共の仲間の絆となっているわけです。
スポーツの応援に行けば、あゝいた、あれはいつ、私にとっては正に青春への復讐の様です。
今、時は変り、時代の反映の様に自分のたくましさを一部薄らいでいる様です。仲間の連帯もうすらいでいるし、卑屈な面もあります。
わが北嶺が、この地域に、そして他の方面にも活動している姿を、生徒たちにあの旧校舎の奥に共につくり上げていきたいと思っています。
北高の森を愛そう会も生れていて様になった環境、私は市民への開放を良いことと思っています。それがこの地の高校の姿であるからと思うからです。でも益々、ゴミは絶えず起ります。それでも解放しなければならぬと思っています。
望月軍四郎先生の遺影をいつも拝みながら、自分のつなげるものを現代的に実践しなければならぬを現代的に実践し、北嶺会が永遠の組織の様に、私も北嶺精神で、卒業生に尻をたたかれながら進みたいと心しています。パンザイ北高、パンザイ北嶺。

母校を語る

越えて戦後から二十五年迄は経済的混乱期で徹底的な価値観の転換期であり、次いで二十五年から三十九年迄は経済的には戦前水準への回復期で、社会的には新しい価値体系の定着した時代と言われている。この間母校は県立移管となったと聞いています。三十年から三十五年は技術革新時代、三十五年から三十九年は所得倍増時代、四十年以降は高度成長との眼目が出て新しいビジョンの模索時代、

笹原 母校創立者である望月軍四郎先生のご意志は、この地区に対して有要な人達を育てるという考え方が出ておりまして、一人でも多く役に立つ人、特に実業的な方面での活躍をのぞまれておられた様です。その点、此処にお集りの皆さんに接しただけでも初期の目的は達せられていると思えますし、地下の先生も現在の盛況をみてようこんでおられる事と推察します。それともう一つの目的であった父母に孝養をつくし供養にしたいという事を常に口にされておりましたが、これも又同様にその目的を達成した後々までも自分のした事が残るとようこんでおら

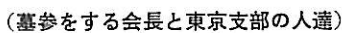
当時校長のすすめで毎日かかさずついていたという日誌を井出副会長から見せてもらいましたから、その当時から「孝養、報恩感謝」という言葉がつかわれ、望月精神というものが皆さんの心の中に、或いは血の中に、或いは骨の組織の中にも少しくも入っているのではないかと、お顔を拝見して改めて思いました。

司会 有難うございました。処で武者小路先生のお書きになった望月軍四郎という本がありました、その中にもある建学の精神について菊地 当時記憶にあるのけ

軍四郎先生が来校されて講堂で講演された中に滅私奉

そして、これを後輩に伝承する。或は同窓同志が反省のよすがとする。これは同門である我々の義務であると考えまして、本日の座談会を企画した次第です。

(井出元一)



司会 今堀地さんからお記
の望月軍四郎先生のご講演
は昭和十四年六月三十日に
母校の講堂で行われたもの
ですが、その減私奉公、報
謝です。さて軍四郎先生の
墓ですがこれは関東地区
が受け持たなくてはせつか
くの行事が立ち消えになっ
てしまうので幹事会にはか

ずる処がありますが……皆様もご存知の通り本校の入口に望月軍四郎先生の胸像があります。その傍の顕彰碑に「財は集めるよりも之をよく散らすは更に難い……」云々ときざまれております。実は東京支部が結成されてから二回程お邪魔した時感した事と併せてお話しますが、我々の年間行事

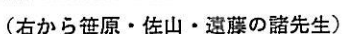
司会 昭和十四年五月二十
二日青少年学徒に賜りたる
勅語から、昭和十五年二月
十一日紀元二千六百年の詔
勅、昭和十六年十二月八日
米英に対する宣戦の詔勅と
このあたりから世の流れが
大きく変わった中でのと思
体験談をあげてみたいと思
います。

のつに軍四郎先生のお墓
遠藤(茂) 今日バスを降り

参りをしようという事が入
つており、東京支部の方々
が代表して行っております
が、その折に望月玉三先生
を訪れ墓参の報告をした処
大変感激されて、実は私の
父は教育に対して非常に熱
心で商工学校の創設にとど
まらずあちらこちらに私財
を投じ、当時商工学校へは
三十万円、同時に慶応義塾
に教師の退職基金として百
万円を使われたが今はその
型も無くなつてゐる。しか
しそれがこうして墓参りとい
う姿になつて現れてゐる
事は非常に嬉しい事である
と感銘され、父が薨いた
種が実を結びそれぞれ地方
で活躍をしている、その持
つてゐる精神が孝養であり

て正門に立つた時に驚きま
いる並木に驚きました。今
迄訪れたのは季節的に葉の
落ちた時だったのか改めて
うっそうと繁る並木に数月
の流れを感じています。そ
して私達も植樹した一本一
本がこんなに大きくなつた
のかと懐しく四十年の学校
の重みをこの手で触れて来
りました。

さて私は本校に十四年間
お世話になりましたが創立
二年目に赴任して来て一番
驚いたのは生徒の規律が正
しくピリツとしていた事で
す。服装は戦時色に統一さ
れ、戦闘帽にゲートル巻を
鞆は布の背のうで登下校の
際に道で逢うと立ち止つて
「敬礼ノ」と挨拶されこ



から笹原・佐山・遠藤の諸先生)

上級生がいるので出来なかつたが……（笑）でも苦ししい思いをしたがその中に楽しさがあつた様に思います。

司会　現在さかんに体験教育というものが叫ばれ見直されておりますが、北高の場合それを三十数年前から実行していたという事ですね。

今村　今の遠藤君の話に補足させてもらうと、遠藤君は上手に表現したんだけら



（右）

ど……當時は笹原先生の担任でその笹原先生がこわくて(笑) 土を五回運ぶと砂糖水を一杯づつ飲ましてくれるんだが飲むと又五回運ばなければならぬ。それがつらくて……でも今になってみると色々な意味で大切だった。そして人間には鍛えるべき時期がありそ

遠藤(茂) 私もその時一緒に歩きました。

笹原 よくここまで歩いて来たところから帰って来る生徒を迎えた事がありますが、その苦しみの中につちかわれたものは尊いし、それが現在の原動力になっていると思います。

池田 先程来の話にある規

つても無理ですが……

速藤(茂) 困ったのは、演習場の芒が身の丈ほどあって、道に迷つたりで大変でした。

速藤(實) 私達二期生は御殿場から箱根を越して小田原までの行軍でした。帰りの汽車の時間がきめられていたので湯元あたりで歩い

羅へ下りて小田原に出るコースだった。服装は突弾を持っていないだけで当時の陸軍の兵隊と同じ重装備です、それを十七才で経験したんですから…… 私達はそれをやりとげたという自負を持ちました。足は豆だらけですが、小田原からは指定列車なので乗り遅れた

も両方でこぼこで丁度よかったですよ…… そんな記憶がありますが、だから今の中学でニキロばかり何んだといいたたい、今では一筆に付され通用しないかも知れないが、私はそんな事はない、そういう処から根性というものが生れてくると信じています。

も両方でこぼこで丁度よかったですよ…… そんな記憶がありますが、だから今の中学でニキロばかり何んだといった、今では一笑に付され通用しないかも知れないが、私はそんな事はない、そういう処から根性というものが生れてくると信じています。

佐野(芳) 先程よりの話にある様に本校は規則正しかったですが、そうゆう中で我々クラスだけでも知れま

せんが昼休みに土手で昼寝をする、当時サイレンやベルがなく用務員さんが鈴をチリンチリンと鳴らしたものですが学校が広いのと眠気が先なので聞えない。

特に北西の土手は居心地がよくつつい休休みを延長する羽目になり、あわてて教室にもどつて来て例に

はそんな心のゆとりを持つて
いるかどうか……考える事
と行動する事のアンバランス
が感じられるのは私だけだ
ろうかと時々思います。我々
の時代は厳しさはあったかも
知れないが、別の意味で暖か
い心のゆとりを感じられる
訳です。そこで改めてお願いし

めて取りあげてほしい。当時天びん棒で各廊下の入口にヤカンを持って来てくれたのですが、そういう人の面影を我々でとらえてみたいと思いますネ。

司会 先々月ですか、二の宮の道で当時の用務員さんで渡辺さんの奥さんに逢いました、未だ健在の様でし

した。入学したのが商工学校で、三年頃は実業高等学校附設中学になり、次が実業高等学校、卒業してみたら北高になった。実際北高と言われても最近までピンと来なかったのは事実です。それから校歌もそうですネ、最初のと今とでは一部歌詞が変わっています。



昭和19年頃の全景

県立移管

司会 此処で県立移管の問題に就いてみたいと思ひますが、
遠藤(茂) そうですネ……
まあ何故県立移管を考えたかという事が中心になると思ひますが、結論からい

とお説教をされた事もありました。そんな中であつて、味つた様な感じがします。今日も来る時にバスから学校の裏手に出て参りました。その時の木々の大きくなつたのには驚きました。そしてその年輪を考へるにつけ先程遠藤先生がおつしやつた歳月の流れを感じ、同時に我々も望月精神をよく噛みしめて地域社会に貢献しなければならぬと痛感しました。
久高 私達が入つた時は終戦のドサクサからどうやら落着きをとり戻しはじめた時代でしたが、今迄のお話をお聞きして恥しく思ひます。当時富士高の先生が講師で見えられておりましたか、その先生に「一期から

学生気質今昔

司会 さて戦中戦後の混乱期を過ぎ、現在ほどではないにせよ満ち足りた環境の中で勉学にいそむる学生が来た人達の話も含め学生気質今昔を語ってもらひましょうか。
佐野(康) 当時私達生徒の間でも、先生が給料を貰つていないみたいだと噂をして心配していたんです。
遠藤(茂) それに財政的に

つたい事をいう様ですが、このままでは教員の給料えも確保出来るかどうかという状態でした。これが創立者が御存命で何らかの処置が講じられれば別ですが、そういう頼みの綱がなくなつたという主として財政的な事が中心で県立移管した方がという事になったと思ひます。
司会 そういつた背景の中で時代は流れて行くのです。が根本となる北高の創設の精神だけはいつまでも失いたくないものでね。
加藤 私は篠原君と同級で三年間一緒にやって来たんですが、彼のいう通り当時

付合える間柄になつており、これは他の学校にはみられないものであると改めて人間教育的なものが強い学校に育つた事に感謝しております。
篠原 今の高校生は可哀想ですネ、勉強勉強で自由奔放さがなく、加藤先生のいわれた骨つぽさが段々失われて行く様な……型にはめられた様な生徒になりつつある様ですネ、そして自由に伸び伸びやる面が少なくなつています。
司会 今も話に出ました生徒の違ひも含めた近況を稲葉先生にお聞きしたいのですが……
稲葉 加藤先生がいわれた様に確かに骨つぽさがなく弱々しい感じがすネ。それに生徒はおとなしく女の子をお教へている様でウン、本当に気がない様で思へます……近況としては今年女子が十五名入りました。商業科六名、普通科九名ですが、加藤先生も男子ばかりの北高に女子が入つて来て今に女子化してしまふんではと心配されておりますが……やはり今迄の男子校に変わった流れが出来て戸惑つて居る事は事実です。運動関係も非常に頑張つておりまして、野球、相撲、テニス、陸上等とめざましい活躍ぶりです。特に相撲は御承知の通り、インターハイ、国体、金沢大会と優勝し全国制覇をなしましたし、野球も順調に仕上がつて居る様です……私達はこのやうやって自分の出た学校で生徒を教へる事の出来る幸せを深く感じて居る訳ですが、部活動におきましても、進学の問題におきましても、もっととっと伸びてほしいと切望し、又それなりの努力は惜しまないつもりでおります。
司会 後輩に当る生徒の指導よろしく願ひします。
導よろしく願ひします。
さて佐野さんスポーツ関係のOBとして。
佐野(康) 私の場合野球に片寄る様ですが、何んといつても四十年の甲子園出場が歴史に残るのではないかと思います。それからもう十三年です。野球部としても頑張らなければならぬと思ひます。他には石川行男さんのオリンピック出場も特筆すべきですし、相撲の三連覇もおそらく全国的にみてもめづらしい事ではないかと思ひます。こうしてみるとスポーツ面のレベルは相当高まつて居るといえますネ。
司会 陶芸家の加藤唐九郎氏によれば伝統とは培かうものだ、成長なくして伝統はないといわれて居ますが、本校の校風等を織り混ぜながらその移り変りについて遠藤先生……
遠藤(茂) 私共が他の県立高校にいて、戦後となつたか話にありましたが北高の評判が悪く聞けた時期があつたと思ひます。これは私達が北高を愛するあまりに余計に感じつたのかも知れませんが、外にいて自分の長年すこした学校の、特に生徒の生活面の評判の下落に氣をもんだものです。これは何処の学校でもあつた事です。我が校がひびきに考へて居る北高だつたもので余計にそう感じたと思ひますが、ともかく困つたなアと心配して居りました。それが野球部が甲子園に出場した頃から急に学校全体が引き締まつて来た。他校の校長や教師が口を揃えていつたものです。従つて活発なクラブ活動の効力は大きいなとつくづく思ひましたネ、あれから学校全体のムードがよくつた事は事実です。そしてそれにつれて学校自身が伸びて来たという受け取り方を僕だけ

大昭和技研工業(株) 常任監査役 深沢礼次郎 17卒	大昭和製紙(株) 経理部関連課長 竹川弘 30卒	富士宮市役所 風岡大晃 17卒
大昭和加工紙業(株) 常務取締役 田中栄次 18卒	主任 堀水益夫 28卒	関尊 17卒
大昭和加工紙業(株) 販売課長 伊藤薫玄 26卒	民事部厚生担当主任 三宅豊彦 18卒	佐野卓司 17卒
大昭和木材(株) 静岡経理部長 高田光雄 18卒	原料部原料課主任 青木武 28卒	大崎敏男 18卒
大昭和木材(株) 東京経理課長 船山利勝 30卒	環境保全全部主任 三上武 26卒	石川嘉浩 18卒
大昭和エンジニアリング(株) 業務グループ次長 渡辺淳 19卒	白老パルプ部長心得 渡辺文夫 22卒	長浜進 21卒
土木建築課技士 鈴木武雄 21卒	吉永製紙課長 渡辺正 26卒	野沢和嘉 17卒
日本健康管理(株) 取締役造園部長 深沢謙次郎 19卒	パルプ係長 秋元昭夫 19卒	倉橋一彦 17卒
大昭和紙商事(株) 物資部課長 高木久 22卒	動力係長 佐野正美 22卒	石川実 18卒
企画統計部課長 遠藤実 25卒	塗工係長 鈴木良孝 24卒	佐野隆時 18卒
大昭和運輸(株) 東京営業所長 佐野昭光 22卒	用水職長 高橋広生 24卒	石川俊彦 21卒
大昭和紙工製造(株) 総務部人事課長 渡辺萌 30卒	鈴川パルプ課長心得 佐野英三 25卒	山中幸太郎 22卒
大昭和住宅(株) 常務取締役 佐野寿彦 31卒	パルプ係長 上原能安 25卒	三興製紙(株) 取締役富士工場長 佐野弘 19卒
大昭和観光(株) 別荘地十里木所長 内田雅浩 32卒	富士物資課係長 長谷川要司 24卒	原質課主任 鈴木貞彦 21卒
	勤労課主任 坪井正二郎 30卒	品質管理課長 深沢安彦 25卒
		三興運輸倉庫(株) 運行課長 佐野富夫 21卒

でなく他の人もした様です。ですからムード作りの上からも大いに奨励してもらいたいです。

笹原 今のお話の様に北高の名前がテレビにあるのはラジオに、あるいは新聞で見ると自分の事の様に喜びを感じるもの一人です。この様に環境が整備されて

活躍する卒業生

司会 今迄話された流れの中で九千五百名の卒業生が社会に出て活躍しているのがその状況など拾ってみたいと思います。

佐野(芳) 私は東京に三十九年勤めておりますが、一期生は二期生が五、六名、その後は空白期間がありとびとびに入っておりますが、特に三期生に出世頭があり、先般三連に三年ばかり行っておりまして、チームワークの工場を作る建設所長という事で活躍し、数億の大きな事業をなし、現在工場生産部長になっております。私事でありますが、私も老人部隊の部長で平均年齢五十何十の年長者を社内より集めて中高年者対策の会社の責任を取っておりますが、世の中自体ががんばしくないのの後輩の受け入れも思う様に出来ず残念に思っています。

司会 学校関係ではいかがですか。

岩間 そうです、校長さんが二期と三期の方で三名教頭が三期四期等で四名という処ですか。

田中 茨木大学理学博士と医学博士が一期生に、三期に理学博士で広島大学の助教、他にも大学助教授がおります。

杉沢 関東地区は故郷を離れてみんな頑張っておりますが、大東京火災海上の専務をはじめ、凸版商品株式

場製紙課長、本社段ボール部課長、子会社であるバルブモーターの支社長、三興製紙では取締役工場長、品質管理課長、大阪事務所経理課長、洋酒ダイオールの常務取締役、天間特殊製紙の社長、共和製紙の社長と専務、丸進製紙の社長、小林製作所社長、材木のマルダイ社長、大興製紙の部長、次長、藤倉の部長、同子会社の重役、日経金、富士急行、日産の課長、それから宇東川製紙の社長と実業界に目ざましい活躍ぶりをして見えています。

司会 地元商店街と富士宮市役所はいかがですか。

今村 そうです、市役所へ行きますというところで卒業生にいます、主な部署では市政の中心で企画部長、福祉事務所所長、農業委員会事務局、市民部参事、建設部長、消防庁、市議会事務局とそれぞれ重要なポストを占めています。それが課長クラスとなると企画調整課長、清掃センター所長、農務課長、商工課長、土木課長、建築住宅課長、下水道課長及び参事市立病院医事課長、水道部業務課長、社会教育課長、福祉児童課参事と枚挙のいとまがありません、商店界を見ますと商工学校が出来る前はそのリーダー的存在の存在は沼商の卒業生でしたが、そろそろ母校の卒業生の台頭が目立って来ましたが、そして市内八つの商店街の会長もしくは役員の間とどが卒業生で、あと五、六年後は北高一色になるものと思われ、尚つた加え、現在ローカルスーパーとしてめざましい活躍を続けているひのやの専務、晃和住宅社長、佐藤工機社長、岡重代表取締役等が目立つ卒業生です。

司会 そうして見ると益々北高の存在価値というものが

先頃青年会議所の専務理事をやつておりました時、そのメンバー約百名を見ました、医師関係等は富士高の方が多いですが、実業界では圧倒的に北高が占めておりました、その他社会保険事務所の調査官、業務一課長と役所関係にも活躍され、日通にも多くの先輩がまわっている人が沢山おります。

司会 政界の動きはいかがですか、そろそろ出はじめる頃ではないですか……

今村 はい、富士宮市議員は公明党で、革新系では芝川町議は四名、富士川町一、富沢町一、こんな具合です。

司会 有難うございました。尚、時間の関係で本日話題の卒業生には御許しを願ひ一応この辺でビデオを打ちたいと思ひます。

出 席 者 (敬称略)	
恩 師	笹原隆次郎先生
〃	佐 藤 祐 先生
〃	遠 藤 樹 先生
会 長	今 村 典 夫
副 会 長	菊 地 千 明
〃	杉 沢 和 一
〃	森 本 政 敏
〃	田 中 清 一
幹 事 長	福 屋 穂 一
副 幹 事 長	佐 藤 康 雄
〃	遠 藤 芳 明
〃	佐 野 明 彦
〃	三 宅 彦 男
〃	池 田 芳 男
〃	岩 間 茂 宏
〃	松 浦 宏 明
〃	川 島 明 宏
〃	斉 藤 明 泉
〃	久 高 義 明
〃	加 藤 義 一
〃	篠 原 秋 雄
副 司 会 長	井 出 元 一

藍沢証券(株) 富士宮支店 支店長 高 山 昭 三 24卒	富士宮信用金庫 総務部総務課長 佐 野 靖 25卒	富士支部有志 (有)綿富士フットン店 遠藤福太郎 17卒
富士支店 支店長 長谷川迪夫 31卒	課長代理 土井庸光 29卒	中華料理屋雲閣 横山達彦 18卒
富士支店 課長心得 高 山 裕 35卒	上野支店長 大石清一 26卒	東芝富士工場 芦 川 源 18卒
富士宮支店 営業係長 影 山 亘 38卒	吉原支店長 小 林 栄 26卒	中華料理大石 大石忠臣 18卒
営業係長 後藤博一 41卒	鷹岡支店長 保坂昭秀 26卒	東亜燃料(株) 望月久男 18卒
掛川支店 經理課長 宇佐美 満 35卒	本店次長 渡 辺 一 29卒	清社会保険 労務士事務所 清 辰 雄 18卒
富士宮支店 営業課長 望月治彦 35卒	西町支店次長 斉藤光浩 30卒	旅館 一平 鈴木敏夫 19卒
富士支店 営業係長 門部勇夫 38卒	芝川町議會議員 高山新一 18卒	富士西金物店 西川勝彦 19卒
営業主任 石川彰三 59卒	芝川町議會議員 滝川文雄 19卒	カメラの石川 石川嘉雄 20卒
協和製紙(株) 代表取締役 渡辺秀夫 17卒	芝川町議會議員 村野道久 19卒	国鉄富士電車区 深沢武男 20卒
協和製紙(株) 専務取締役 塩川嘉彦 17卒	芝川町議會議員 宇佐美孝彦 19卒	富士見高等学校 西山芳範 28卒
		富士宮市佐野会計 事務所税理士 佐野陸夫 18卒
		富士ドラム(株) 篠原 博 17卒
		鈴木利之 22卒

本州製紙富士工場 武田幸二 一八卒	本州製紙富士工場 城内高義 一八卒	本州製紙(株)岩淵工場 芦沢昇 二〇卒	本州製紙岩淵工場 田中熙 二六卒	古和田芳明 二六卒	小野田智男 二八卒	和田静 二九卒	望月保司 二九卒	石川勝雄 二九卒	本州製紙 富士宮事業所 渡辺勲 二〇卒	山本安己 二〇卒	丸山力 二五卒					
佐野末芳 二七卒	土橋英久 二九卒	影山喜巳 二九卒	大村孝雄 一八卒	佐野福三 一九卒	時田昌保 一九卒	池上次雄 一九卒	加藤明 一九卒	佐野栄一 二〇卒	加藤昭吾 二二卒	植松倫夫 二二卒	植松享 二二卒	久保田保 二二卒	佐野俣章 二二卒	吉野圭二 二三卒	佐野正吉 二三卒	
森山寧一 二四卒	二又川務 二四卒	佐藤茂夫 二五卒	村松滋司 二五卒	影山義雄 二六卒	川島多喜男 二六卒	橋本博 二六卒	斉藤年弘 二六卒	清弘 二六卒	村松司朗 二六卒	笹原健一郎 二六卒	佐野末芳 二七卒	飯山政美 二七卒	山本正晴 二八卒	土井久雄 二八卒	服部章弘 二九卒	吉田享 二九卒
井出繁行 三〇卒	吉野量太郎 三〇卒	田辺充則 三三卒	後藤邦博 三四卒	宇東川製紙(株) 福島清茂 一九卒	丸原紙業 佐野昭忠 一九卒	原料商 八木俊治 一九卒	浅見剛司 一九卒	青山静夫 一九卒	加藤久延 一九卒	小松為男 一九卒	鈴木和夫 (旧姓・大石) 一九卒	杉山茂 一九卒	服部太郎 一九卒	中野茂 一九卒		
ヤス牛産業(株) 資材部長 佐野満治 製造課長 高野明雄 三〇卒	ヤス牛産業 製造係長 前島政男 検査係長 井出賢 三三卒	イハラ建成工業(株) 望月令朗 入月明 二〇卒	フジ精糖(株) 藤森柳蔵 若野幸男 二五卒	ヘキ菊池商店 代表者 菊池千秋 一七卒	小山洋品店 小山近 一七卒	信永工務店(株) 深沢幹治 一七卒	岩田種苗店 岩田孝光 二七卒	大門商店店主 鈴木勅 三三卒	メンブジヨブ・ ワタヤ店主 内藤修次 二三卒	富士宮市富丘小学校 岩間茂芳 一九卒	北川製餡所 店主 佐野博美 二九卒					
かまてい食堂店主 神谷貞治 二九卒	富士急行(株) 富士宮営業所 指導運転手係 勝亦利吉郎 三〇卒	丸石洋品店店主 内藤昇次 一七卒	森本歯科医院 院長 森本正敏 一九卒	鈴木青果店店主 鈴木長二 二二卒	鈴木青果店店主 鈴木長二 二二卒	岩田種苗店 岩田孝光 二七卒	大門商店店主 鈴木勅 三三卒	メンブジヨブ・ ワタヤ店主 内藤修次 二三卒	富士宮市富丘小学校 岩間茂芳 一九卒	北川製餡所 店主 佐野博美 二九卒						
代表取締役 佐野章 二九卒	木内書店 木内正和 三〇卒	ヌノヤ金物店 代表 遠藤文也 二六卒	俣布屋ふとん店 代表取締役 小長井雄三 一八卒	河野商店店主 河野賢一 一九卒	小林輪業店主 小林章男 二八卒	足袋庄商店 石川成章 三一卒	おぎ洋品店店主 荻敏雄 二三卒	田中宝飾 田中菊雄 四三卒	三五紙業商會 社長 鈴木唯夫 一七卒	丸木屋商店 店主 鈴木藤市	代表 加藤勇	代表 佐野福司 二三卒	米穀販売 渡辺正二商店 渡辺正二 二二卒	伊藤時男 代表 代表 代表 二三卒	富士宮商工會議所 渡辺英賢 前島茂之	

(株) ミツワ 取締役 小林 武 二六卒	(株) ミツワ 常務取締役 小林 健二 二七卒	(株) ミツワ 専務取締役 小林 明 二五卒	(株) ミツワ 代表取締役 小林 康治 二〇卒	後藤家具店 後藤 秀樹 三九卒	(株) 西川金物店 取締役社長 西川 昭吾 二〇卒	(株) 岡重 代表取締役 岡村 和郎 一八卒	(株) 小林製作所 代表取締役 小林 省吾 二七卒
市川家具センター 市川 博臣 二六卒	(株) 早川園茶舗 代表取締役 早川 昌蔵 二七卒	(株) 山内ケース 代表者 山内 清司 二五卒	マルユウ洋服店 鈴木 保 二四卒	(株) まるたに食品 代表者 谷 文夫 一八卒	小林会計事務所 税理士 小林 芳男 一七卒	秋元時計店 代表取締役 遠藤 一男 一七卒	スエヒロヤ 店主 松下 静雄 一八卒
(株) 佐野洋服店 代表取締役 佐野 良雄 二二卒	よねや商店 小林 欽一 三七卒	旭米店 旭 寿一 三三卒	花形菓子店 花形 宗泰 三一卒	富士山五合目 田中 秀幸 三一卒	ケンユー工業 (株) 市川 恵一 二八卒	子ども服のマリヤ 佐野 彰司 二七卒	カワベ靴店 店主 河辺 準司 二二卒
菓子問屋 内海商店取締役社長 内海 晃	(株) ひのや本店 専務 富士 康太郎 一七卒	斉藤 正 一七卒	竹川ふとん店 竹川 忠 四四卒	全国観光公社 石川 正昭 四一卒	新東運送 常務取締役 小林 一洋 四一卒	いなば化粧品店 稲葉 健 四〇卒	佐野コンニャク店 佐野 禎彦 三九卒
近代家具 富士宮出張所 羽田 源治	(株) 富士宮ゴム 社長 望月 和男 二二卒	牧野酒造合資会社 社長 牧野 利夫 一八卒	学習塾 戸塚 公志 一八卒	今村時計店 今村 堯 一八卒	渡井義臣 一八卒	富士宮東高校 教頭 篠原 渡 一七卒	池野電機店 店主 池野 保策 一九卒
とめえ寿司 望月 軍四郎	㊦まるじゅう 川口 貞雄 一九卒	小林嘉吉商店 小林 秀光 二八卒	美顔センター ワタナベ 渡辺 成一 三三卒	テーラーA&T 吉野 敦巳 二九卒	日本ランド遊園 (株) 取締役 清 延吉 二八卒	伊藤油店 伊藤 喜三郎 二六卒	亀屋 店主 佐野 公彦
望月 好郎 一七卒	(株) 和泉屋建材店 取締役社長 深沢 弘 二九卒	プンゴヤ 佐野 守男 二九卒	(株) 鍛冶熊 専務 春田 秀雄 二八卒	横関履物店 横関 幸夫 二三卒	佐藤青果店 佐藤 晴夫 二二卒	富士見屋酒店 鈴木 久芳 二〇卒	(株) 佐藤工機 代表取締役 佐藤 文二 一九卒
池谷陶器店 池谷 文之助 一八卒	後藤茶店店主 後藤 徳太郎 一七卒	寺田茶店 寺田 隆彦 四〇卒	影山米店 影山 善巳 三三卒	(株) ルームフジ 代表取締役 渡辺 素 三〇卒	そば長生庵 木内 照明 二九卒	まるた本店 佐野 豊治 二九卒	(株) 市川家具センター 代表取締役 市川 昌毅 一九卒
伊藤 嘉英 柳橋 邦夫	吉原 東海スポーツ 渡辺 正徳 一九卒	小沢 照夫 漆畑 智 一八卒	遠藤 富夫 鈴木 隆弘 一八卒	佐藤 嘉彦 佐野 彌 一七卒	渡辺 哲夫 稲穂 稔 一七卒	杉山 寿美雄 加藤 喜平 一七卒	秋山小児科医院 秋山 芳光 銀座美容商会 鈴木 正巳 一七卒

同窓会支部だより

市役所支部

評議員 大崎 敏男
(商業・昭和十八年度卒)

私達が入学した頃の学校の校並木も樹令五十年になろうとしている。この年輪が、即ち北高の歴史を物語っているものといえよう。昭和十二年郷士の生んだ最大の偉人ともいえる望月軍四郎先生の郷土愛によって設立された当時の大宮商工学校も、幾多の変遷を重ねながらも今や卒業生も九千五百十人、まさに一万人を数える県立富士宮北高として発展をしていることは、同窓生各位とともに御同慶にたえない。

私は、戦後市役所に入っただけであるが、当時は北高の卒業生は一人もいなかった。戦前一期生の先輩が、役所入りの第一号であったが、その先輩が、戦後税務署へ転じたので、私が現在の役所の中で最古参といふことになる。それが今日では、北高出身者は、市役所全男子職員四百九十三名のうち百二十名を数えるに至った。その中で部課長の職にある者は十九名で、役職のうち三分の一を占めるという一大勢力となっているのである。同じ学校で、恵まれた環境の中で教育を受けた者が、同一職場で市民への奉仕者として仕えることができるのを大変力強く思うし、市民福祉向上のために、いささかなりとも貢献しているものと自負している次第である。

望月軍四郎先生は、理事長として、昭和十三年五月生徒を前の訓話の中でこう述べられている。「私がこ

今一度真剣に見つめる必要があるということだ。そして、この事実には誠に尊いことなのである。時の経過はややともすれば、私達の記憶を遠く彼方へとおしやうてしまいが、意義ある創立四十周年を迎えて、私は、創立者の望月軍四郎先生の御遺徳を同窓生各位とともに讃え追慕したいと思うのである。

かつて、北高が甲子園における第三十八回全国選抜高校野球大会に出場した、後援会事務局としてお手伝いをさせていただいたが、市民各層、各般にわたっての声援と、協力は、実に大きいものがあった。矢張り市民の北高への関心と期待が、如何に身近なものであったかを肌で感じたのである。勿論、その際の同窓生の結果が、その原動力ではあったと思うが、いづれにしても、郷土愛の尊い先輩の御遺徳が、市民の中につの証左ではなかっただろうか。そこで、私が、特に本紙を通じて強調したいことは北高の生成のプロセスを、

関東支部

本校創立者望月軍四郎先生の遺徳を関東支部主催に依って行い、毎年七月十六日午前十時青山祭場茶屋に集合するむね関東支部幹事会(昭和五十二年七月二日開催)に於て決定致しました。そして昭和五十二年度は望月三三理事長名代、財団法人役員中沼様の御世話により左記の方々の参加を得まして賑かに盛況致しました。年毎に参加者も増え、今後は地域支部のみならず他支部の方々に御参加をお願いすると共に、この火を消す事なく若い方々の積極的な参加を熱望する次第でございます。

(昭和五十二年参加者) 今村会長、菊池副会長、田

静西支部

支部長 明石 秀男

本年一月十六日、静岡市南口の東海軒会館において静西支部発会式を行い、静西支部の第一歩を踏みだしました。支部の発会にあたり本部役員及び支部員各位の絶大な協力によりまして無事終了しました事を紙面にかりてお礼申し上げます。皆様方の協力をお願い致しまして支部便りいたします。

東芝富士工場 生産部長 遠藤 康夫 二〇卒	さがみや(寿司)店 店主 加藤 栄一 三三卒	大阪 三田工業(株) 取締役経理部長 中尾 光男 一七卒	静岡税務署 上席国税徴収官 篠原 良明 三三卒	東京 (株)ガデリウス 辰野 緑 一八卒
富士リビングサービス(株) (東芝富士工場内) 専任取締役 佐野 芳明 一八卒	マルキチ薬局 内藤 弘市 一八卒	清水市 大洋寒天(株) 糠谷 三千男 一七卒	大興製紙(株) 管理課長 二又川 泰秀 三〇卒	千葉 佐野商事 代表 佐野 成夫 一八卒
藤野屋店主 佐野 康雄 二七卒	学習塾 泉教室 塾長 深沢 彪 一八卒	静岡市 下村歯科医院 下村 春海 三七卒	伊長豆腐 かつらぎ館 八景園 小野 弘 一九卒	川崎 第一勧業銀行本店 検査部長 里 芳昭 二〇卒
今昔(和風食処) 鈴木喜八郎 三九卒	(株)マルビシ 代表取締役 佐々木 宣弘 三〇卒	愛媛県 大王製紙(株) 常務取締役 渡辺 延次 一七卒	千葉 三玉光洋学園経営 斉藤 太郎 一八卒	横浜 公認会計士 吉野 昌年 二〇卒
(株)山重呉服店 代表取締役 望月 昭男 三〇卒	(株)食堂菊屋 代表者 笠井 治 二七卒	静岡市 (株)篠原印刷所 代表取締役 篠原 重雄 一八卒	東京 古河金属技術部 篠原 義治 一八卒	大和田市 京浜工業(株) 常務取締役 秋山 泰俊 一九卒
(株)国分電機 代表取締役 国分 尚武 二三卒	松葉屋履物店 遠藤 善聖 三〇卒	児童・生徒の生活 相談・人事管理相談 カウンセラー 大山 弘純 一八卒	東京 薪炭業経営 鈴木 昭弥 一八卒	川崎 電気工業 代表 村松 全伸 二二卒
(株)船橋洋品店 代表取締役 船橋 昌博 三五卒	松葉屋製材所 遠藤 諭 二二卒	清水市 梅芳園 佐藤 幸雄 一八卒	川越市 (株)ベッカー精工 社長 小泉 雅彦 三〇卒	東京 文具販売 代表 寺田 正信 三三卒
富士宮市議会議員 稲田 圭佑 三一卒	一品料理「芝舟」 望月 達 四一卒	静岡市 明石商店 明石 秀男 一七卒	厚木市 キリンオート(株) 代表取締役社長 佐野 隆将 三一卒	東京 印刷製本社 代表取締役社長 石川 義郎 一七卒

52 年 度 就 職 状 況

〔金融・証券〕		富 士 通	1	天 間 特 殊 製 紙	2
三 和 銀 行	2	岡 ス チ ー	2	オ ミ ケ ン	1
静 岡 銀 行	2	沼 津 ベ ー カ リ ー	1	〔運輸・通信〕	
富 士 信 用 金 庫	1	藤 沢 薬 品	1	ト ナ ミ 運 輸	1
労働 金 庫	1	ル ダ モ イ	5	国 鉄	7
藍 澤 証 券	5	富 士 フ ィ ル ム	2	〔電気・ガス〕	
〔卸・小 売〕		山 川 工 業	1	東 京 電 力	1
日 生 あ つ み 薬 品	1	ニ ッ ッ	2	〔公務・サービス・その他〕	
ス ズ ケ ン	1	日 産 自 動 車	6	国 家 公 務 員 (郵 政)	6
富 士 宮 薬 器	1	日 本 自 動 車	9	ク (行 政)	1
マ ス	1	日 本 自 動 車	2	静 岡 県 職 員	3
大 栄 太 源	1	長 谷 川 鉄 工	1	自 衛 隊 官	2
大 丸	2	日 本 清 紡	1	警 察 官	1
ニ チ ニ キ	1	本 州 製 紙	3	富 士 市 市 民 協 会	1
大 丸 百 貨 店	1	岩 田 ポ ル ト	1	レ ス ト ラ ン 「中」	1
大 川 島 時 計 店	1	高 木 日 産 工 業	1	富 士 市 市 民 協 会	1
角 田 薬 品 会	2	旭 池 三 藤 江	1	富 士 市 市 民 協 会	1
富 士 一 商	2	太 戸 セ ラ ミ ッ ク ス	1	富 士 市 市 民 協 会	1
〔製 造〕		富 士 生 産	1	富 士 市 市 民 協 会	1
小 材 製 作 所	2	富 士 生 産	1	富 士 市 市 民 協 会	1
里 和 製 紙 工	2	富 士 生 産	1	富 士 市 市 民 協 会	1
福 録 紙 工	1	富 士 生 産	1	富 士 市 市 民 協 会	1

座せる紳士より立てる農夫が尊い、教育は耳学問ではなく体験学習によって成果を挙げる事が出来る。私

上杉 三郎 (28・4・33・3)
富士宮市杉田八二九
〇五四四二〇三三〇九
富士宮から富士市を一望
の山に見おろす事の出る
杉田の丘の上に先生の居
宅がある。
広い庭と近代的な建屋が
しつくりと、とけ込んでい
る、先生の人間味はこの環
境を見て「さてこそ」と、
うなづける。
先生は北高を退かれてか
ら農高、市議会副議長を経
て現在、畑地総合開発理事
長でとても歳を思わせぬ若
さである。発想がユニーク

なつかしの 恩 師
は生徒に労働を通して人格
の形成に努力した、成績の
良いものより悪い生徒に力
をそそいだ、物事は何でも
徹底してやる様に仕向け
た。場合によっては鉄拳制
裁も辞さなかった。
筆者は一期生であるので
直接、先生には接し得なか
ったがガラガラ声で話し始
めた先生の話しに脈々と流
れている母校の創学の精神を
見る事が出来て無性にうれ
しかった。
先生は北高を退かれてか
ら農高、市議会副議長を経
て現在、畑地総合開発理事
長でとても歳を思わせぬ若
さである。発想がユニーク



田 中 豊 久
私の前後に控える来客の
為、去り難い気持を残し乍
ら帰路についた。
尚母校の北側の杉林は
先生の寄付植林である事を
つけ加えておきます。

成 田 甫 (二九・四一三七・九)
富士宮市西町五ノ六
〇五四四二〇三三〇九
歩く事が何よりも好き
だった先生の想い出は登山
部の入道と南北アルプスを
はじめていくつかの山々を登
った事。北高を去って十五
年余になるがその後は一度
も山に親しむ機会に恵まれ
ず淋しい限りだがそれだけ
に山を通じての生徒との語
らいがなつかしく眼を細め
ておいででした。
モーターゼーションの世
の中で郊外の都市化が進み
自然破壊が叫ばれている昨
今、広大な敷地を擁する北
高の緑は想い出深く、是非
共大切にしたいとの事
結びに同窓会の益々の発展
を祈っております。

東京 大東京火災海上保険 専務取締役 塩川 嘉彦 一七卒	川崎 （株）マルイチ薬局 経 営 一ノ瀬 志郎 一七卒	東京 河瀬 昌年 一八卒	東京 （株）凸版商品 社 長 吉野 孝三 一八卒	東京 荒川区役所 山口 揚衛 一八卒	埼玉 アトム化学 常務取締役 内田 房夫 一八卒	富士宮北高等学校 宮川 澄雄 一七卒 田 中 清 一七卒 清 家末夫 一八卒 稲葉 房穂 二五卒 森 川 晃 二五卒 野村 藤男 二八卒 大久根 正弘 三〇卒 戸田 保明 中二九卒 鈴木 亘 三三卒 加藤 馨一 三三卒 三田村 和夫 三八卒	東京 （株）東亜燃料 佐倉市 宮沢 清 一七卒	水戸市 茨城大学教授 山本 勝巳 一七卒	水戸 富士設備工業 水戸市東部設備 社 長 佐藤 全平 一八卒	東京 千石・菓子製造業 高橋 省吾 一八卒	横浜市 大興製紙（株） 動力部長 井出 元一 一七卒	群馬県 川原崎義雄 二六卒	東京 （株）富士美印刷社長 赤池 重信 二六卒	東京 （株）ダイヤ食品 宇佐美 脩 一八卒	川崎 （株）三宝運送 代表取締役 杉沢 和一 一七卒	東京 （株）清水銀行東京支店 取締役支店長 原田 活美 一九卒	東京 （株）南都産業 代表取締役社長 真保 等 一七卒	東京 （株）観光業・飲食業 代表取締役社長 田口 栄一 一七卒	東京 （株）富士建業 代表取締役 遠藤 障樹 一七卒	東京 製紙原料商 駿河商会 代表 望月 忠義 二一卒	東京 望月 喜美男 二一卒
--	---	--------------------	--------------------------------------	-----------------------------	--------------------------------------	--	-------------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--	---------------------	----------------------------------	--------------------------------	--	---	---	---	--	--	---------------------

※掲載順序不同でござい
ますが、御了
承願います。

各部の活躍

特に今回は北嶺だよりとしては初めての試みであるとして、稲葉房穂氏の労を中滑、稲葉房穂氏の労を特記したいと思います。

(井出)